

「スマート SME（中小企業）研究会」の設置について

平成 29 年 3 月 29 日

中小企業庁

1. 問題意識

- (1) 我が国の中小企業の IT 導入は、利用している企業が 6 割弱、事業に直結する分野に活用し先進的な利用を進めている企業は、その中でも 3 分の 1 程度に留まっており、IT 導入のポテンシャルは未だ高く、事業に直結するスマート経営のための IT 投資の誘導が政策的には重要である。
- (2) 中小企業の IT 導入を加速するためには、自社の経営に係る各プロセスを単純に IT 化に置き換えるだけでなく、IT を経営に導入することにより収益を伸ばしている企業について「スマート SME（中小企業）」として、ビジョンを示し、導入の支援体制について検討を進め、環境を整備する必要がある。
- (3) IT 分野では、技術の進歩により、従来からのオンプレミス型に加えて、クラウド型の普及が進みつつある。クラウド型では、①利用者自らが高度な知見を有する必要が無く、IT システムを自ら保有する必要がない、②業務の複雑さに応じて、ある程度、業務プロセスリエンジニアリング（BPR）が行われており、中小企業による導入が比較的容易である③メンテナンスは IT 事業者が行うため、セキュリティなど収益に直結しない分野を含め、中小企業が必ずしも資源を余分に割く必要が無い、と言ったメリットがある。また、クラウド型で提供されているサービスは、中小企業にとって関心がわきにくい、内部管理コストだけではなく、より収益を生み出す攻めの投資に直結するサービス提供を行うことが可能となっている点に注目する必要がある。
- (4) クラウドの導入支援を行う場合、①サービス提供の仕組みを踏まえた支援体制、②企業間連携のあり方、③サイバーセキュリティへの対応として、どのような施策が必要となるのか検討が必要である。
- (5) 第四次産業革命により、AI や IoT により、既存の産業構造は大幅に変わるという指摘がある。具体的な状況を踏まえ、発生しうる産業構造の変化について、検討が必要である。

2. 主な観点

- (1) IT 導入により、中小企業の経営上どのような効果を目指すのか
(中小企業の各業務に応じた IT 活用の整理、「スマート SME」経営によりデータ作成から利用への転換・徹底的な省力化など)
- (2) 中小企業のクラウド導入による生産性向上のポテンシャル
(企業内、API によるデータ連携、企業間 EDI など)
- (3) 中小企業による IT 導入の促進体制のあり方
(中小企業支援団体、金融機関、調達企業との連携など)
- (4) 中小企業とサイバーセキュリティ
- (5) IoT や AI や BD から生じる産業構造や中小企業への影響

3. 今後の予定

- ・ 第 1 回 (3 月 29 日)
研究会の開催について、中小企業・中小企業支援団体の IT 導入の取組について
 - ・ 第 2 回 (4 月中下旬)
IT 事業者等の IT 導入の取組について
 - ・ 第 3 回 (5 月)
第 4 次産業革命の影響について
 - ・ 第 4 回 (5 月)
とりまとめ
- ※開催、議題については変更の可能性あり。